



学校だより

8・9月号 (第182号)
令和4年8月29日発行
横浜市立並木中央小学校

今月号より、教員の働き方改革の取組として、学年だよりの体裁が変わります。行事予定や全学年に共通する内容は、学校だよりに載せ、学年だよりに、学年独自のお知らせのみとします。ご理解の程、よろしく願いいたします。



子どもの「レジリエンス」を鍛える

校長 齋藤 由美子

39日間の夏休みが終わりました。子どもたちは、様々な学びや体験ができたのではないのでしょうか。学校は、この休み中に技術員さんが廊下や階段にワックスをかけ、ピカピカです。調理員さんは、9月からの給食に備え、準備万端。担任をはじめ、教職員全員で笑顔で子どもたちを迎えます。一方、コロナ禍は続き、休み明けと共に、また子どもの感染が拡大する予想もあります。引き続き、熱中症予防と感染予防に努めます。

さて、人が生きていく中で、時に逆境に置かれることがあります。そのような時、傷ついた自らの心を、しなやかに回復させる力のことを「レジリエンス」といいます。「レジリエンス」を鍛えることは、逆境を乗り越えるだけでなく、何があっても挑戦していこうとする前向きな気持ちや行動につながります。不確実で予想しないことが起きる時代だからこそ、大切な力の一つだと思います。そしてこの力は、日頃から鍛えることができるようで、そのコツをお聞きしたのでご紹介します。特に子どもの「レジリエンス」を鍛えるためには、周囲の大人が意図的に仕掛けることが大切です。

- ① ものごとを解決するには、一方向からだけでなく、多方面から考えることが大切だと子どもに教えること。一つだけやって、「もうだめだ。」と諦めさせず、子どもには次の手を考えることを提案していく。決して悲観的にならず、楽観的に考えさせる習慣が大切。
- ② ピンチをチャンスにかえるような気付きをさせること。困難な状況に陥ったら、それをマイナスで終わらせず、そこから何を学んだかを子どもに考えさせること。
- ③ 日々の生活リズムを大切にすること。規則正しい生活と食事・睡眠・休養をとることが全ての土台。

子どもの育ちを信じ、様々な場面で子どもの「レジリエンス」を鍛えていきましょう。

残暑厳しい中、朝の登校時には、みまもりかいの方々のお元気な声と優しい笑顔。こちらもエネルギーをいただいています。心より感謝いたします。そして、保護者・地域みなさん、夏休み明けも、どうぞお元気でお過ごしください。引き続き、本校教育活動に、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

小中ブロック校 共通スローガン **あいさつで 心豊かな 一日を**